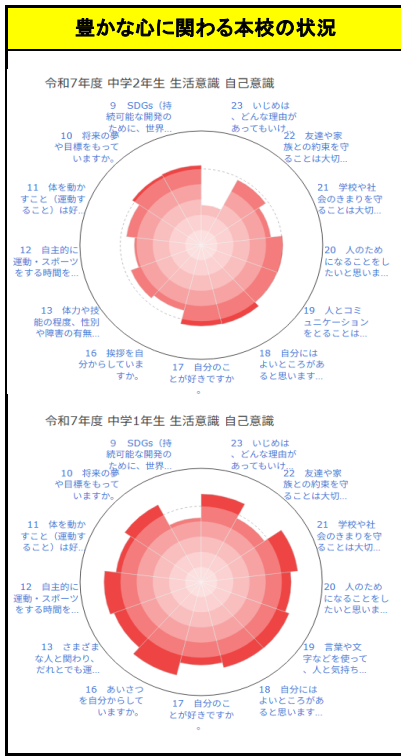


学校教育目標	
「自立・共生・学び合い」 ○自分のよさを知り、なりたい自分を見つけられる人を育てます。(知) ○相手のよさを認め、励まし合い、地域と共に生きる人を育てます。(徳・公) ○命の大切さを知り、持続可能な社会を共に創る心と体を育てます。(体・公) ○思いやりのある、親切な行いを実践し、社会に貢献できる人を育てます。(開)	
教育課程全体で育成を目指す資質・能力	
協力して学び続ける態度 思いや考えを伝えあう言葉の力 他者のため、社会のために行動する力を大切に、心身の健康を管理する力	<b>具体化した資質・能力</b> コミュニケーション能力 自立・自律 社会に貢献する行動力 問題解決能力
中期取組目標	
○学校教育目標を実現するために、全教職員が学校運営に主体的に参加し、一丸となって、教育活動を行います。 ○学力向上を図るために、基礎基本の習得を重視し、協働して学ぶ生徒の育成をめざします。 ○体力の向上と、心身ともに健康な人を育成するために、持続可能で調和の取れた教育活動を行います。 ○持続可能な社会づくりのために、地域と協働する学校づくりをめざします。 ○横浜で一番アットホームな学校をめざします。	

**学力向上アクションプラン**

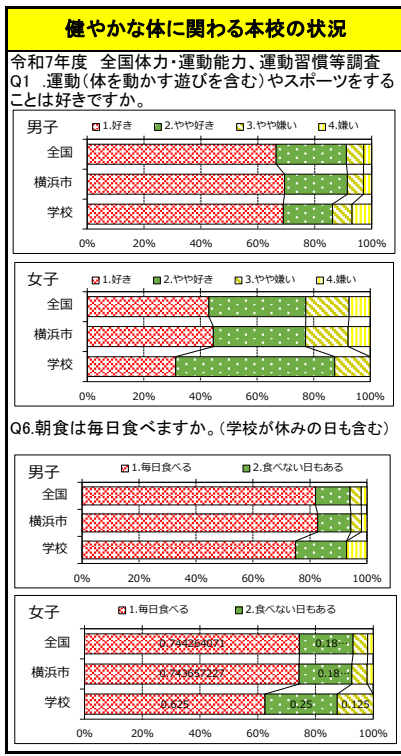
重点取組分野	具体的取組
人権教育	①人権講演会を実施し、教職員、生徒の人権意識を高める。 ②子ども会議のテーマをもとに人権(いじめ)について、小中ブロック、区で意見交換を行い、生徒の人権意識を高めると共に、いじめの未然防止の取組につなげる。 ③人権をテーマとした道徳の授業の推進及び、国際平和スピーチや人権作文の発表の場を設けて、生徒の人権意識を高める。
担当	人権・国際・総合



今年度の目標	
自己有用感を高め、自分を大切にするとともに、他者を尊重し、思いやりをもって接することができる生徒の育成を目指す。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	国際平和スピーチコンテストや人権作文と関連する道徳の授業を行う。それらをもとに、人権について考える機会を作る。 生徒自身が、道徳・各教科・行事など、あらゆる場面で、自分や他者の良い点やできたことを認め合ったり褒め合ったりする場面を作る。 子ども会議での意見交換をもとに、いじめの未然防止の取組を全校で実施する。
下半期	人権講演会や人権週間にちなんだ道徳などを活用して、自分や他者を認め合い、尊重し、思いやりをもって接する心を育成する。 上半期におこなったいじめの未然防止の取組やその成果を全校に共有できる場を設置し、意識を高める。 文化祭にて国際平和スピーチコンテストや人権作文で選ばれた代表生徒が、発表をすることで人権について考える機会を作る。

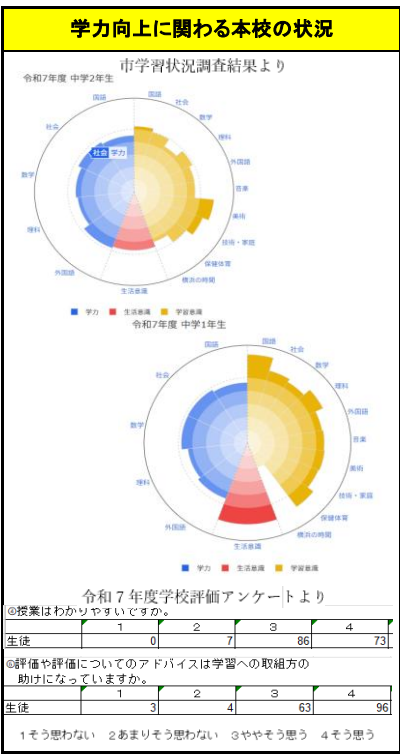
**健やかな体の育成プラン**

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①体力の向上を図るために、保健体育の授業や体育祭での取組で生徒一人ひとりの意欲を引き出す。 ②新体力テスト、アンケート調査の結果をもとにしながら、よりよい運動習慣や生活習慣が身につくように支援する。 ③学校給食全員喫食に合わせ、食育の推進とエレベーター設置後を見据えて、校内体制を整える。
担当	保健安全指導部・学校給食委員会



今年度の目標	
・運動に親しみ主体的に取り組みながら、運動習慣の定着や生活習慣の改善を働きかけ体力向上を目指す。 ・食の大切さの理解を深め、成長や健康管理を意識した望ましい食習慣が図れることを目指す。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	・保健体育の授業において、十分な準備運動の実施と、自己や仲間の安全を確保するための手段を指導する。 ・体育祭に向けて主体的に取り組むよう指導する。 ・新体力テストや身体計測等から自分の心身について理解し、体力向上や健康を保持するための手立てを深める。 ・定期健康診断や各種調査の結果を健康教育に生かす。 ・昼食時間などを活用し、食と健康について興味関心を高める。
下半期	・保健体育の授業において、十分な準備運動の実施と、自己や仲間の安全を確保するための手段を指導する。 ・命の教育を通してかけがえのない命や健康の大切さについて理解を深める。 ・昼食時間などを活用し、食と健康について興味関心を高める。

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①教職員同士での互いの授業見学や意見交換、教科研究会の参加等で、生徒が主体的に学習に取り組む態度の育成、ICT機器の効果的な活用を進めていく。 ②学校評価アンケートの生徒による授業評価、学習状況調査の結果をもとにしながら授業改善を行う。 ③基礎・基本を定着させるためにAタイムやAドリルを効果的に活用し、家庭学習の取組も促していく。
担当	学習指導部



今年度の目標	
主体的に学習に取り組む態度を育成し、基礎基本の定着を図る。 学習に対する意識と学力の相対を目指す。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	基礎基本の定着のために、Aタイム・Aドリル・夏季学習会・MANABUBA等を有効活用する。 Aタイムは自学自習の場となるので、担任を中心に主体的に学習に取り組めるよう環境を整え、個々に声をかけていく。 各教科の授業においては、学習意識と学力に差があるので、相対関係になるように授業を工夫していく。 定期テストや小テストで基礎基本の定着が見とれるよう作問を工夫する。
下半期	職員同士で授業を見合い、積極的に意見交換を行う等高め合っていく。 各教科で定期テストの結果等を踏まえて基礎基本の定着や経年変化を確認する。 定着していない生徒や家庭に対しては面談時にMANABUBAを勧める等学習意識が向上するよう助言する。